

平成16年3月10日

記者各位

会社名 **MORESCO**  
(登記社名：株式会社松村石油研究所)  
代表者の役職名 取締役社長 中野正徳  
(登録銘柄コード番号 5018)  
問い合わせ先 広報室長 長尾光俊  
電話番号 078-303-9010

## MORESCO中期経営計画について

この度、当社グループの中期経営計画のローリングを実施し、2004年度から2006年度までの3年間を対象とする中期経営計画を策定いたしましたので、その概要についてお知らせいたします。

### 1. 中期経営ビジョン

「小さくとも世界にきらりと光を放つモレスコグループ」  
- 環境にやさしいモノ作りとサービス -

### 2. 中期経営方針

- 2.1 技術力とノウハウの結集により特定分野でのシェア No1 を目指す  
当社がこれまで蓄積してまいりました技術やその周辺技術をもって、独自性のある新たな製品を送り出していくことを目指します。
- 2.2 次代の柱となる付加価値の高い新事業を創造する  
高度化、多様化する情報化社会や地球環境保護のもと、新しい技術と信頼性が求められ、これらの二 - ズに沿った新事業にチャレンジいたします。
- 2.3 国際市場での供給と調達をダイナミックに展開する  
アジアを中心とした国際市場に製品供給を積極的に推進、原材料については国際市場を睨みながら、臨機応変に調達し競争力の向上を図ります。
- 2.4 国内外グループの連携を強化する  
国内外の子会社および、関連会社との製販体制の効率化を促進し、事業の拡大に取組みます。
- 2.5 生産プロセスの見直しと原価管理の徹底により大幅なコスト低減を実現する  
コスト競争力強化のため、工場、生産技術、物流、経理、システム等関係部門の叡智を結集し、製造コストの引き下げに取り組みます。
- 2.6 人事・教育の充実によりアグレッシブな人材を育成する  
「社員が働き甲斐を持って生きいきと働いている会社」を実現するため、人事・教育制度の運用充実に取り組み、人的活性化を促進します。

## 2.7 情報の発信・収集・解析の高度化を図る

ここ数年、社内情報システムの充実、カスタマーセンター設置によりお客様との緊密化を図りました。加えて知的財産に関する情報解析、また積極的なIR活動を実践し経営活動の活性化を図ります。

## 2.8 財務体質を強化する

最適な資金調達と効果的な資金配分により、財務構造の改善に取り組みます。

## 3. 中期経営計画

### 3.1 中期経営計画策定の考え方

当社事業を取り巻く環境は、1)国内自動車及び関連部品産業、鉄鋼、電子、衛生材製品、化粧品など堅調に推移、2)中国を中心とするアジア市場の高成長、3)原油・ナフサ価格の高止まり基調などと捉えております。これらの外部環境を踏まえ、各業界の動向に基づいた既存製品の売上を予測し、加えて「高付加価値製品の開発販売」により、収益体質の強化を目指す中期経営計画といたしました。

### 3.2 売上高、利益計画（連結） [単位：百万円/年]

	2003年度実績	2004年度	2005年度	2006年度
売上高	8,809	9,660	10,400	11,100
営業利益	476	580	740	920
経常利益	398	540	720	930
当期純利益	228	310	450	590
経常利益率	4.5%	5.6%	6.9%	8.4%

注) 2003年度実績は2004年2月時点の見込み値です。

### 3.3 部門別売上高の計画（連結） [単位：百万円/年]

	2003年度実績	2004年度	2005年度	2006年度
化学品事業	8,746	9,600	10,340	11,040
素材部門	(2,102)	(2,140)	(2,300)	(2,470)
特殊潤滑油部門	(3,361)	(3,710)	(4,010)	(4,280)
合成潤滑油部門	(744)	(830)	(960)	(1,020)
ホットメルト接着剤部門	(1,875)	(2,030)	(2,060)	(2,090)
その他	(664)	(890)	(1,010)	(1,180)
賃貸ビル事業	63	60	60	60
合計	8,809	9,660	10,400	11,100

注) 今次中期計画より合成潤滑油部門は特殊潤滑油部門から分離独立させました。

## 4. 重点事業戦略（概要）

### 4.1 素材部門

化粧品などの原料となっている、流動パラフィンの業界シェアNO.1を維持すると共に、「流動パラフィン及びスルホネ - トの用途開発」を進め、収益構造の改

善に取組みます。

#### 4.2 特殊潤滑油部門

国内自動車生産はほぼ横ばい（自工会予測によれば2004年は前年比101%）が見込まれる。またその関連部品産業もアジア・欧州向けの輸出好調から引き続き高水準の需要が予測されます。水系潤滑剤を始めとする「環境対応商品の開発販売強化」により、国内シェアアップを図ると同時に、アジア市場を中心とする海外展開で事業を拡大してまいります。

#### 4.3 合成潤滑油部門

従来から高温用潤滑油として展開してきた合成潤滑油に、新たにハ・ドディスク表面潤滑剤を加え、より戦略的な展開を図る目的で合成潤滑油事業部を新設。保有する各種合成油と合成技術の複合化を図り、自動車、家電、IT産業を対象とした新用途の拡大に取り組みます。一方、事業展開が加速し始めたハ・ドディスク用途は採用機種の拡大と、次世代モデルに対応できる潤滑剤の開発を推進いたします。

#### 4.4 ホットメルト接着剤部門

主力である衛生材用途製品では競合激化が見込まれますが、「パッケ・ジレス製品によるシェア確保」と「衛生材用途以外の高機能粘着材の開発と販売強化」によって売上増を図り、事業の収益性向上に取り組みます。

### 5. 研究開発の重点

#### 5.1 研究開発の重点

研究開発の重点を「情報機器関連分野」と「環境機器関連分野」に置き、成長性と付加価値の高い新製品開発に取り組みます。

環境関連は光触媒、酸化剤と紫外線を組み合わせた水浄化ノウハウによって、自動車関連工場の排水を対象に、「産業廃棄物の少ない処理装置・システム」の開発に取り組み、処理水は飲料水レベルを目標とした再利用までを目指します。

情報関連は現在の磁気記録システムでは対応できない時代を想定して「次々世代(超高密度)ハ・ドディスクに適用できる潤滑剤」の開発と、デジタル家電、デジタルカメラ、携帯電話などに利用が期待されているCu配線半導体の製造プロセスで不可欠な、「信頼性の高いCMPスラリー」の開発を海外の研究機関と共同で取り組んでおります。

以上